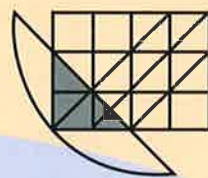


# 博物館だより



## 和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.20

2015.3

### 平成26年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン 推進功労者表彰 内閣総理大臣表彰(最高賞)を受賞!



総理大臣官邸での授賞式の様子

和歌山県立博物館では、視覚に障害のある方が展示物の感覚的なイメージを掴み、情報を得ることを容易にするため、県立和歌山工業高等学校との連携による3Dプリンターを活用したさわられる文化財レプリカ作りと、県立和歌山盲学校との連携による特殊な盛上印刷によるさわって読む図録作りを平成二二年度から継続して行っています。このたび、こうした博物館の取り組みに対して、内閣府のバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の、内閣総理大臣表彰(最高賞)を受けることができました。

従来より博物館では、文化財の保存上の必要性から展示資料をケースの中に納



県立和歌山工業高等学校でのレプリカ制作の様子

め、展示解説を読んでいただくことを展示の基本としていますが、視覚に障害のある方にとっては、こうした展示手法自体がバリアーとなっているという現状があります。同様の課題は、日本中の博物館や美術館が抱えているものです。和歌山県立博物館が全国に先んじて行い、また開発してきた「和歌山方式」のさわられる文化財レプリカとさわって読む図録の作成方法が、3Dプリンターが広く普及し始めた現在、汎用性が高まっている点

が評価されたものと考えています。

またこのさわって読む図録とさわられるレプリカのどちらも、博物館にとって最も情報を届けにくかった視覚に障害のある



実物(左)と作成したレプリカ(右)  
熊野権現本地仏像(安楽寺蔵)

る方々に向けて作成したことで、結果的に誰が使用しても楽しく、分かりやすい内容のものとなっています。展示のバリアフリーを目指したことで、博物館展示のユニバーサルデザイン化を大きく進展させることができました。

ユニバーサルデザインという概念では、誰もが使える(公平性)、自由に楽しむ(柔軟性)、触覚による多くの情報と(直感的な情報の認知)、簡単かつ丁寧な解説に触れ(シンプルさ)、破損による影響も少ない(失敗に対して寛大)ことが大切です。これからも、あらゆる人が利用しやすく、また満足感を得ていただける博物館作りを進めていきたいと思えます。

# 先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える

平成二三年（二〇一一）九月の紀伊半島大水害によって、たくさんさんの尊い命と財産（文化財を含む）が奪われました。今後も洪水や土砂災害、さらに東海・東南海・南海三連動地震や南海トラフ巨大地震の起こる可能性が指摘されています。

こうした災害から自らの命と財産（文化遺産を含む）を守るための活動を、日ごろから継続して行う必要があります。そのためには、災害が起こる前に、地域に眠る過去の「災害の記憶」を呼び起こし、地域の人々に伝えていくことが必要であり、津波や洪水による浸水が予想される地域に残されている文化財などを把握することも大切であると考えています。その一環として、



災害記念碑の調査

那智勝浦町天満の天満天神社境内にある尖頭角柱の昭和東南海地震津波の「大津浪記念之碑」。那智中学校正門門柱を転用したものとわれています。



文化財の所在確認調査

美浜町吉原の松見寺での仏像調査。材質や寸法、破損の有無などを記録にとり、併せて写真撮影も行いました。



防災訓練の見学

平成26年11月1日に行われた美浜町美浜ノ瀬地区の防災訓練。9時3分に地震が発生したとの想定で、炊き出しや一時避難場所までの避難訓練などが行われました。



刊行した小冊子

（博物館HPでダウンロードできます）

和歌山県立博物館では、平成二六年度から和歌山県教育庁文化遺産課、和歌山県立文書館と連携し、県内外の歴史研究者の協力のもとで、『地域に眠る「災害の記憶」の発掘・共有・継承事業』を行っています。

和歌山県域において、地震津波被害や洪水被害が想定される地域が広範囲に及んでいることを踏まえ、平成二六年度は日高川河口周辺地域および那智湾と那智川河口周辺地域を対象に、「災害の記憶」の発掘と文化財の所在確認を行いました。今年度も継続してこの事業を進めていく予定です。こうした取り組みが、これから起こりうる災害に対して、自らの命と身近にある地域の貴重な文化財を守っていく活動への一助となればと考えています。

# 常設展の多言語化（英語・中国語）

近年、外国からの観光客の数は増加傾向にあり、和歌山県内においても、高野山や和歌山城などの観光地では、外国人観光客の姿がよく見かけられるようになりました。このような状況の中で、和歌山県全体の歴史を常設展の形態で展示をしている和歌山県立博物館としては、この地域の歴史・文化をより理解してもらうために、国内の利用者だけでなく、海外からの利用者にも開かれた博物館をめざす必要があります。

そこで、和歌山県の歴史・文化の流れを紹介している県立博物館の常設展「きのくにの歩み―人々の歴史と文化―」における展示解説について、外国人利用者のための環境整備を行いました。これまで、県立博

物館では展示資料のキャプションや各コーナーの概説プレートに英文表記を加えたり、音声ガイドに英語版を備えたりしてきましたが、今回は各コーナーのあらましを記したパンフレットを作成し、展示ケース内に置かれた番号プレートとリンクできるようにしました。全部で34箇所のポイントを設定、それぞれ英語版・中国語版（簡体字・繁体字）そして日本語版を制作しました（翻訳作業は和歌山県企画部文化国際課所属の国際交流員に依頼）。また、展示ゾーンの概説を記したファサードの部分にも外国語表記を加え、あわせて文字の読みにくさも解消して、展示全体の流れがよりわかりやすくなるようにしました。

# 新館開館二〇周年を迎えました！



ポスター展の様子

和歌山県立博物館は、昭和三八年（一九六三）、史跡和歌山城二の丸跡に創設された県立美術館を前身として、昭和四六年



連続講座の様子

新館が開館してから今年で二〇年になります。そこで、新館開館二〇周年という節目にあたり、当館の二〇年間のあゆみを振り返るポスター展、館長・学芸員による連続講座（全七回）を開催しました。

（二九七二）四月二二日に県立博物館として改装のうえ開館しました。現在の建物は、平成六年（一九九四）七月八日に和歌山城の南に場所を移し、新たに開館したもので、

# 高野山開創と丹生都比売神社 — 大師と聖地を結ぶ神々 —

4月25日(土) ～ 6月7日(日)

高野山麓・かつらぎ町天野の地に鎮座する丹生都比売神社は、開創一二〇〇年を迎えた高野山の鎮守社として古くから篤い信仰を集めてきました。平成一六年には高野山や町石道などともに「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコの世界遺産に登録され、平成二六年には社殿の修理が完成し、正遷宮が行われました。丹生都比売神社に祀られる丹生都比売命(丹生明神)は、紀の川から有田川の流域にかけて広く信仰されてきた女神で、弘仁七年(八一六)に弘法大師空海が高野山を開創する際、丹生都比売神社の祭神である、犬を連れた猟師の姿の狩場明神(高野明神)が仲立ちし、この女神から広大な神領を引き継いだとする伝承がよく知られています。丹生・高野明神は高野山の壇上伽藍・御社にも祀られています。

この特別展では弘法大師空海と地域の関わりや伝承を、丹生都比売神社の神々にまつわる歴史とともに紐解き、世界遺産・高野山とその山麓に広がる文化圏の豊かな魅力をご紹介します。特集展示「高野山と有田川流域の仏教文化」を同時開催します。



丹生明神坐像と女神坐像 (三谷薬師堂蔵・個人蔵)



天部形立像 (大福寺蔵)



丹生高野四社明神像 (興山寺蔵)



高祖大師秘密縁起 (館蔵)



弘法大師像 (津川遍照寺蔵)

## 「弘法大師と高野参詣」

9月19日(土) ～ 11月1日(日)

平安時代の初め、弘仁七年(八一六)に弘法大師・空海は高野山に金剛峯寺を開きました。それ以来、弘法大師や高野山に想いを寄せ、多くの人々が高野山へお参りにやってきました。

この特別展では、高野山開創一二〇〇年あたり、弘法大師の事績を振り返りつつ、天皇・公家・武士・庶民など様々な人々が高野山へ寄せた想い、またその参詣の様子、参詣道沿いに位置する文化財を通じて、あらためて高野山の歴史と魅力について紹介したいと思います。



高野山町石道

企画展	企画展	企画展	企画展	高野山開創1200年記念特別展	夏休みの企画展	企画展	特別展	企画展	常設展
海の国・わかやま	紀州を旅する	紀州の四季を描く	仮面は語る	弘法大師と高野参詣	わかやま城探検	きのくに・漢詩の世界	高野山開創と丹生都比売神社 ―大師と聖地を結ぶ神々―	みほとけのすがた	きのくにの歩み ―人々の生活と文化―
3月12日～4月17日	1月23日～3月6日	12月12日～1月17日	11月10日～12月6日	9月19日～11月1日	7月18日～9月6日	6月13日～7月12日	4月25日～6月7日	3月14日～4月19日	4月1日～9月6日 11月10日～3月31日
海に囲まれた紀伊半島では、海と深い関わりのおかげで人々は暮らしてきました。海岸沿いの村・町の風景や、漁業や海運などの暮らし、さらには水軍などに関わる資料を中心に、海を舞台にたくましく生き生きとしたきのくにの人々の営みについて紹介します。	高野山や熊野三山などの霊場、和歌浦や橋杭岩などの名勝。きのくに―和歌山には、古くから人々を魅惑してやまない場所がいくつもありません。きのくにを旅した人々が残した、絵画作品や紀行文・記録などを紹介して、人々をいざなつたきのくにの魅力について紹介します。	かつて、人々は現在よりも、より強く四季の移り変わりを感じていました。この企画展では、江戸時代の紀州の画家による山水図や風景画の中にあらわされた、四季の風景を描いた作品をとりあげます。江戸時代における、人々の季節感を鑑賞ください。	世界各地で太古より使用され続けてきた仮面。プリミティブ(原始的)な祭礼から洗練された仮面劇まで、その多くのシーンで、信仰を背景にした聖俗の接点として仮面が機能しています。仮面の多様な造形からその魅力を伝えるとともに、仮面に映し出されたきのくに―和歌山の歴史を紹介します。	高野山を開いた弘法大師空海、高野山に参詣した人々、高野山への旅程をテーマとして取り上げます。高野山開創一二〇〇年にあたり、あらためて弘法大師と高野山に対する信仰と参詣の移り変わりを明らかにし、高野山の歴史と魅力をひろく伝えたいと思います。	近世の幕開けとともに築かれた和歌山城は、城下町のシンボルとして人々に親しまれてきました。この夏休み子ども向け企画展では、和歌山城と城下町が今日までたどってきた歴史を、残された資料からわかりやすく紹介します。また、「わかやま城探検ツアー」などの関連企画も開催します。	江戸時代には、人々は学問・研究の手法は中国にあると考えていました。中国に起源のある漢詩を勉強したり作ったりすることは、教養を身につけるときに必要なことでした。この企画展では、江戸時代に紀州の人々が表現した書画の作品としての漢詩、また絵画とリンクした漢詩などを展示します。	丹生都比売神社は、開創一二〇〇年を迎えた高野山の鎮守社として古くから篤い信仰を集めてきました。この特別展では、弘法大師空海と地域の関わりや伝承を、丹生都比売神社の神々にまつわる歴史とともに紐解きます。特集展示「高野山と有田川流域の仏教文化」を同時開催。	仏教への信仰のために描かれた絵画のことを仏画とよびます。仏画にはおおくの種類があり複雑ですが、美しく彩色して描かれた作品もあり、独特の魅力もあります。この企画展では、博物館に収蔵される仏画を紹介して、作品に込められた人々の祈りのかたちに迫ります。	三万年にわたるきのくに―和歌山県の歴史を、人々の生活と文化を主題として、7つのコーナーに分けて、時代の順にわかりやすく展示します。なお、高野山開創一二〇〇年記念特別展「弘法大師と高野参詣」の開催期間中は、常設展示を行っていません。

**お知らせ**  
博物館では、主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドをご提供しています。(一般二〇〇円、高校生以下一〇〇円)。常設展については、上級コース・英語版もあります。  
◆博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。  
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

**和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会**  
保田龍門・保田春彦展  
なつやすみの美術館  
つばやき おはなし ものがたり  
ここだけの日本画  
生誕100年 村井正誠展 ひとの居る場所  
宇佐美圭司回顧展  
※このほかコレクション展や特集展示、特別事業なども開催されます。  
5月26日～7月5日  
7月14日～8月30日  
9月11日～11月3日  
12月18日～2月14日  
3月1日～4月17日

**和歌山県立博物館 博物館だより 第20号**  
編集 和歌山県立博物館  
〒640-8137 和歌山市吹上二丁目4番14号  
TEL(073) 436-8670  
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>  
平成27年(2015)3月発行

**和歌山県立博物館友の会**  
―平成27年度会員募集―

友の会では、バスツアー、書籍の割引販売などの事業を行っています。  
入会のお申し込み・お問い合わせは  
友の会事務局 (TEL 073-436-8670) まで。



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

〈常設展・企画展〉

入館料	団体	個人	一般	大学生
	220円	280円	170円	140円

※特別展は別料金になります。  
※高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料です。  
※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

**博物館の利用案内**

入館料	来館者	来館者以外
1時間まで	200円	300円
以後30分ごと	100円	100円

※大型バスをご利用の場合はお問い合わせ下さい。

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末年始。展示替にともなう臨時休館する場合があります。  
詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。